

二、會議脱退後我方トノ交渉案件ニシテ現ニ懸案タルモノ左ノ如シ

(一) 太平洋防備制限問題

華府条約第十九条ニ規定セラルル本件防備制限条項ヲ明年以後ニモ存続方ニ関シ英側ヨリ我方意向ヲ照会越シタルニ対シ我方ハ趣旨ニ於テ異存ナキ旨ヲ答ヘタルカ英側ヨリ更ニ米側意向ヲ確メ我方ニ内報スルコトトナリ居レリ

(二) 潜水艦使用制限規則参加国拡大問題

仏伊カ倫敦条約第四編本件規則ヲ受諾スルト共ニ日英米仏伊五国ハ本件規則ニ加入方ヲ一切ノ国ニ勧誘スルコトヲ英国政府ニ要請スル趣旨ノ「プロセヴェルバル」ヲ作成スルコトトナリタルカ手續問題ニ関シ日仏間ニ多少意見ノ合致ヲ見サル点アリテ目下両国間ニ交渉中ナリ

(三) 帝国ノ新条約参加問題

四月三日附ヲ以テ英国政府ヨリ帝国政府ノ新条約参加方ヲ招請越セリ

(四) 英国「ホーキンス」級巡洋艦処分問題

倫敦条約ニ依リ本年未迄ニ処分ヲ要スヘキ「ホーキンス」級巡洋艦四隻ノ改装保有方ニ関シ本年二月中英海軍側ヨリ帝国海軍側ノ意向ヲ照会越シ我海軍側ハ条約違反ト認ムル旨ヲ回答シタルカ五月一日英国政府ヨリ「メモランダム」ヲ以テ本件ニ対シ帝国政府ニ於テ異議ナキヤヲ照会越セリ

第一編 帝国ノ脱退後ニ於ケル倫敦海軍會議經過概要

第一章 會議經過

昭和十一年一月十五日海軍會議第一委員會第十回會議終了後帝国全權ハ委員會議長宛會議脱退ヲ通告シ爾後會議ハ英米仏伊四国間ニ続行セラレタルカ第十三回會議ヨリ帝国「オブザーバー」参列セリ會議經過概要左ノ如シ

第一 第一委員會會議經過

一、第十一回會議（一月十六日）

帝国脱退後最初ノ委員會タル第十一回會議ニ於テハ先ツ議長ヨリ帝国ノ會議脱退通告文ヲ披露シ之ニ対スル答翰案（後出第三章第一参照）ヲ決定シ

次テ建艦通報問題ニ付討議シ全会一致左記提議ヲ採択セリ

「情報交換ハ凡ユル海軍縮協定ノ緊要ナル部分ニシテ又建艦計画ノ事前通報ハ最モ希望スヘキモノナリ」

二、第十二回會議（一月十七日）

右會議ニ於テハ前回ニ引続キ年次建艦計画ノ事前通報及情報交換ニ関スル英米仏伊各案ニ付討議シタル上前回ノ委員會ニ於テ採択セラレタル提議ヲ基礎トシテ年次建艦計画ノ事前通報及情報交換ニ関シ具体案作

成ノ為一ノ専門分科会ヲ設置スルニ決セリ(同分科会ノ事業ニ付テハ後出第二参照)

三、第十三回会議(一月二十九日)

(一)本會議以降帝國「オブザーバー」藤井代理大使及藤田海軍武官ハ第一委員會ニ列席ノコトトナリ議長ハ歓迎ノ辞ヲ述ヘタリ

(二)會議ハ質的制限問題ノ討議ニ入り

先ツ議長「モンセル」ヨリ質的軍備競争ハ最モ經費ヲ要シ且危険ニシテ華府條約ノ功績ハ量の方面ヨリモ寧口質的制限ヲ実現セル点ニアリ量の制限ヲ輕視スルニハ非サルモ此ノ際質的制限ヲ行フヲ要ス第一委員會第一回會議ニ於テ述ヘタル如ク英ハ質的制限ニ関シ一九三二年七月七日壽府軍縮會議宛自國通報所載ト同一見解ヲ依然有シ居レリ尚英カ最近二年間關係國ト折衝ヲ行ヒ來レル経緯ニ鑑ミ質的制限ニ関シ提案方希望アリタルニ付左ノ如ク各艦種最大限ヲ提案ス

主力艦、三万五千噸(二千又ハ三千噸低下ノ可能性アリ) 十四吋航空母艦、二万二千噸六・一吋

甲級巡洋艦、協定期間中不建造、現存甲巡代換ニ付テハ其ノ艦齡到達前ニ考慮スルコトトス

乙級巡洋艦及驅逐艦、七千五百乃至八千噸六・一吋

潜水艦、二千噸五・一吋

他方事前通報以外目下ノ所量の制限協定ノ見込無キニ付主力艦ト巡洋艦トノ間ニ不建造帶ヲ設ケ以テ巡洋艦ニ対スル最大限設定ノ趣旨ヲ通シタシ即チ一万噸ヲ超エ二万噸ニ至ル迄ヲ右不建造帶トシ二万噸以

下ノ主力艦建造希望ノ小海軍國ノ必要ニ応スル為速力二十「ノット」ヲ限度トシ二万噸超過ヲ許容ス右ヲ基礎トシテ討議ヲ行ヒ度シト述ヘ

(三)右ニ対シ「デーヴィス」ハ米ハ軍縮實現ノ方法ニ関シ英ト見解ヲ異ニシ艦型ヨリハ隻數ニ依リ縮減ヲ行フヲ可トシ居ルモノナルモ特ニ米案ヲ固執セサルヘク英提案ヲ討議ノ基礎トスルニ異存ナシ尚米ハ經費節減ノ見地ヨリ主力艦艦齡ヲ二十六年トスル用意アリト述ヘ

「モンセル」ハ艦齡ハ「定義」問題討議ノ場合ニ考慮スヘキモノナルモ英トシテハ二十六年トスルニ異議ナキ旨ヲ此ノ際直ニ言明スト答フ

(四)仏(「ロベール」)ハ現在ノ造艦技術上ノ主力艦ハ二万七千噸十二吋トセハ航統力、速力及武装ノ点ヨリ見テ充分ナルヘシ吾人ノ任務ハ日本カ出來得ル限り速ニ加入シ得ルカ如キ妥協案ノ探究ニアル処日本カ大艦ノ性能ニ大縮減ヲ加ヘンコトヲ主張シツツアリシハ吾人ノ等シク承知シ居ル所ナリ依テ一般的協定起草ノ為ニハ主力艦艦型ヲ出來得ル限り小ナラシムルヲ要ス何レニセヨ仏モ英案ヲ討議ノ基礎タラシムルニ異議無シトシ

(五)伊モ主力艦最大限十二吋及約二万七千噸ヲ提案シ斯クセスンハ日本ノ會議復歸ノ望鮮シトシ同シク英案ヲ討議ノ基礎トスルコトニ同意セリ

(六)次テ議長ヨリ仏ハ主力艦ノミニ言及セルカ巡洋艦ニ関シテハ如何ト問ヒ仏ハ主力艦ニ付決定アレハ他艦種ニ関スル協定ハ容易トナルヘシト答ヘ伊亦一時ニ一艦種討議シ度シト述ヘタルニ対シ議長ハ仏伊ハ主

力艦先議ヲ主張スルモ英案全体ヲ討議セスンハ一艦種ニ付不満アルモ他艦種ニ付満足ヲ得ルカ如ク討議スルヲ得ス公平ヲ欠クヘシト駁シムハ英案ヲ討議ノ基礎トスルニ同意セルハ主力艦ニノミ関スルモノニシテ巡洋艦、潜水艦等ニ関シテハ然ラズト酬ヒ伊モ主力艦ニ関スル意見ノ相違ノ方他艦種ニ関スルモノヨリ大ナリ出来得ル限り伊ノ見解ニ同意セラレト懲懲シ結局議長ノ提議ニ依リ事前通報ニ関スル専門委員会報告提出ヲ待チ大体一月二十一日第一委員会ヲ開催シ各種定義決定専門委員会ヲ設クルコトトシテ散会セリ

四、第十四回會議（一月三十一日）

(一) 曩ニ第十二回會議ニ於テ設置セラレタル年次建艦計画ノ事前通報及情報交換ニ関スル専門分科会ヨリ提出シタル九ヶ条ノ条約案文ニ付審議ス

劈頭議長ヨリ本件条約案ハ一切ノ主要海軍国カ条約ニ加入スヘキ予想ノ下ニ立案セラレアル処若干国不加入ノ場合ニ備フヘキ保障条項ノ問題ハ本件案文以外ノ他ノ諸問題議了ノ後ニ譲ルヲ可トスヘシト述ヘ其ノ通り決定

(二) 次ニ英仏側ヨリ条約案第二条ニ建造中ノ軍艦ニ加ヘラルコトアルヘキ「重要ナル変更」ヲ予見シ居ルハ悪意ノ締約国ヲシテ最初ノ通報ト異ル艦船建造ヲ可能ナラシムルカ故ニ不可ナリト主張シ結局建造中ノ艦船ノ予見セラレサリシ変更及既成艦ノ重要ナル変更ニ付通報スルコトトシ且確定案文ハ更ニ法律専門家ノ意見ヲモ徴シ作成スルコトトセリ

尚右「重要ナル」ノ意義ニ付質問出テ英「ダントワーツ」ヨリ右ノ語ハ不明瞭ナルモ其ノ内容ヲ余リニ窮屈ナラシムルハ却テ所期ノ目的ニ副ハサル結果ヲ生シ得ヘキヲ以テ締約国ノ善意ニ委ヌルノ外無シト説明シ

結局前頭第二条字句修正ヲ条件トシテ本件分科会条約案採択セラレタリ

(三) 最後ニ艦種、一切ノ戦闘用艦船ノ基準排水量及艦齡ノ定義並ニ質的制限ニ関シ報告作成ヲ任務トスル専門分科会設置方ヲ決セリ（同分科会ノ事業ニ付テハ後出第二参照）

五、第十五回會議（三月十一日）

(一) 第一委員会ハ前回（一月三十一日）ノ會議後分科会ニ於ケル質的制限問題ノ討議急速ニ進捗セサリシト他方伊国ハ新条約不署名ヲ声明スル等ノ困難ヲ生シタル為結局二月中ハ開催セラルルニ至ラス三月十一日漸ク会合シタリ

右會議ニ於テハ先ツ専門分科会提出ノ報告(イ)艦船ノ定義及艦齡(ロ)質的制限(ハ)建艦ノ事前通報ニ開スル報告補足ノ三者ニ付審議ノ結果満足ナル保障条項ノ作成ヲ条件トシテ(米ハ或一國ノ新建造量カ事実上国防ニ影響スル場合ニ米國カ八千噸超過艦ヲ建造シ得ル様本件保障条項ヲ起草スルノ要アリトノ留保ヲナセリ)右報告ヲ採択シタルカ伊側ハ主力艦及不建造帯ニ関シ一般の留保ヲナシタリ

(二) 次テ保障条項及条約ノ期間ニ付討議ノ結果期間ハ六年トスルコトトシ又右保障条項案ノ作成ハ条約全文ノ起草ト共ニ特ニ起草委員会ヲ設置シテ之ニ委ヌルコトトシ同委員会ハ条約文起草ニ当リテハ一九四一

年一月一日以後起工又ハ取得セラルル主力艦々型縮少方ニ付一九四〇年中ニ締約国間ニ商議スヘシトノ
 仏側希望ヲモ參酌スヘキコトトセリ

(三)米側ヨリ本年末前ニ既成ノ甲級巡洋艦ハ基準排水量三百噸ヲ限度トシ修理又ハ改装ニ基ク現存排水量超
 過ヲ妨ケストノ提案アリ採択セラレタリ

(四)仏側ヨリ倫敦條約第四編(潜水艦使用制限規則)ヲ新條約中ニ挿入シ加入国拡大方ヲ計ルヘシトセルニ
 對シ英ハ同編ト今次條約トハ全ク別個ノモノニシテ英トシテハ兩協定ノ同時署名實現ニ努ムヘキモ前者
 ノ為ニ後者ノ成立ヲ阻ムヘキニアラスト信ス

差当リ代表部間ノ非公式會談ニ依リ必要アラハ特別委員會ヲ設クヘシト答ヘ右ニ決セリ

六、第十六回最終會議(三月二十一日)

(一)前回會議ニテ設置セラレタル起草委員會ノ作成セル條約、署名議定書及追加議定書案文ニ付審議ノ結果
 之ヲ採択シタルカ伊国ハ前回同様主力艦及不建造帶ニ關シ一般的留保ヲナセリ

又愛蘭ハ次ノ理由ヲ挙ケテ新條約ニ參加スルノ意思ナキコトヲ明ニシタリ

(一)愛蘭政府ハ海軍縮問題ハ専ラ海軍國間ノ問題ナリト認ム

(二)新條約ノ規定ハ實際上愛蘭ニ適用セラレス

(三)今次條約ニ愛蘭カ加入スルニ於テハ將來愛蘭政府カ海軍國ニ限定セラルヘシト認ムル海軍會議ニモ參
 加スルカ如キ事態ヲ馴致スヘシ

尚南阿連邦ハ條約ノ形式ニ関シ

(1)前文ハ全英連盟ノ各邦ニ付宣言セラレタルモノニシテ從テ各邦限リ義務ヲ負擔スルモノト解ス

(2)條約案第二十二條(軍艦ノ処分方法ノ制限)中ノ「外国」ニハ全英連盟各邦相互關係ヲ含マスト認
 ムル旨留保セリ

(二)新條約ハ三月二十五日午後聖「ジュームス」宮ニ於テ英米仏三国並ニ愛蘭自由國ヲ除ケル英自治領ノ各
 代表之ヲ署名スルコトトシタリ(南阿ハ其ノ後署名ニ參加セサルコトトナレリ)

(三)新條約署名後其ノ写並ニ關係書類ヲ連盟事務總長ニ送付スルト共ニ連盟國政府ノ考慮ニ附スル為右諸國
 政府ニ通報方ヲ示唆スルコトトセリ

第二 専門分科會ノ事業

一、建艦計畫ノ事前通報及情報交換ニ関スル専門分科會

(一)本分科會ハ一月十七日第一委員會第十二回會議ニ於テ年次建艦計畫ノ事前通報及情報交換ニ関スル具体
 案作成ノ為設置セラレ左記四項目ノ研究ヲ託セラレタリ

(イ)建艦計畫宣言ノ前又ハ後ニ於テ協議ノ要ノ有無

(ロ)宣言後十二ヶ月内ニ之ヲ變更シ得ルヤ否ヤ

(ハ)建艦計畫通報ノ期日

(ニ)計畫通報ト骨据附トノ間ニ置カルヘキ期間

(二)分科会ハ一月十七日ヨリ同月三十日ニ亘リ五回会合シ右諮問事項ニ対シ夫々左ノ通告申セリ
 (イ)協議ハ随意トス(從テ条約案中ニハ之ニ触レズ)

(ロ)宣言シタル計画期間中ハ如何ナル艦種ニ付テモ通報兵力ヲ超ユヘカラス但シ一般の保障規定ニ拠ル
 場合ヲ除ク

(ハ)計画ハ各曆年最初ノ四ヶ月中ニ通報ス

(ニ)通報後四ヶ月ヲ経ルニ非サレハ起工シ得ス

(三)右ノ外左記諸項ヲモ勸告セリ

(イ)情報供給国カ公表スル迄ハ通報セラレタル情報ハ秘密トス

(ロ)原則トシテ百噸以上ノ軍艦ニ付テハ事前通報ヲ行フ

(ハ)起工前兵装又ハ設計ニ付重要変更ヲナシタル場合ニハ通報シ且其ノ四ヶ月後ニ非サレハ起工シ得ス

(ニ)建造中ニ兵装又ハ設計ヲ変更スル自由アリ重要変更ハ之ヲ通報ス

(ホ)建造中又ハ既成艦ニ於ケル重要変更ハ毎年一月ニ通報ス

(ハ)締約国法域内ニ於テ非締約国又ハ不特定国ノ為ニ建造スル艦船ニ付テハ之ヲ通報スヘシ

(四)分科会ハ伊国側提案ヲ基礎トシ右(ニ)及(三)ノ諸項ヲ包含セル九ヶ条ヨリ成ル条約案ヲ作成シ之ヲ一月三十一日ノ第一委員会第十四回会議ニ提出シタル処同委員会ニ於テ一部字句修正方要求ヲ附シテ採択セラレタリ(本章第一、四ノ(ニ)参照)仍テ分科会ハ右要求ニ基キ二月十四日前報告修正ニ関スル追加報告ヲ決

定シ三月十一日ノ第一委員会第十五回会議ニ提出シテ採択セラレタリ

(五)本件条約案左ノ如シ

(新条約第三編ヨリ第十、十一条ヲ除キタルモノニ略々同シナルヲ以テ省略ス)

二、定義及質の制限問題ニ関スル専門分科会

(甲)定義及艦齡問題

(一)本分科会ハ一月三十一日第一委員会第十四回会議ニ於テ(イ)艦種及基準排水量ノ定義、艦齡並ニ(ロ)質的制限ニ関シ報告作成ノ為設置セラレ二月三日第一回会合ヲ開催、定義及艦齡問題ノ為小分科会ヲ設クルコトトシ左記諸項ヲ諮問セリ

(イ)砲、速力等ニ制限アル百噸ヨリ二千噸迄ノ艦船ノ為一艦種ヲ設クヘキヤ

(ロ)航空母艦ノ定義

(ハ)「モニター」艦ノ定義

(ニ)百噸以下ノ艦船及軍艦輸送船等ノ問題ノ検討

(ホ)艦齡

(二)右ニ対シ小分科会ハ二月五、六日兩日ニ亘リ三回会合シ左ノ通り答申セリ

(イ)前項(イ)ノ艦船ハ「小艦船」トス

(ロ)航空母艦トハ専ラ航空機ヲ海上ニテ搭載且運用スル目的ヲ以テ設計セラレタル水上艦船ヲ云フ

航空母艦ハ飛行甲板ノ有無ニ依リニ艦級ニ分ツ（米ハ之ヲニ艦種トセンコトヲ希望セリ）

(イ)「モニター」艦ハ主力艦ノ一艦級中ニ含マシム（八千噸ヲ以テ艦級ヲ區別シタルハ一九三〇年寿府軍縮条約案ノ區別ニ依レリ）

(ニ)百噸以下ノ艦船ハ「小艦艇」ニ、軍隊輸送船等ハ「補助艦船」ニ包含セシム（前者ハ新条約ニ依リハ建艦通報ヲ要セス）

(ホ)艦齡ニ付テハ

主力艦 二十六年

航空母艦 二十年

三千噸—一萬噸艦 十六年又ハ二十年

三千噸以下 十六年（伊ハ二十年ヲ希望セリ）

潜水艦 十三年（伊ハ十五年ヲ希望セリ）

トシ尚標題ハ「艦齡」ニ代フルニ「艦齡超過」トスルヲ適當ト認メタリ

(三)小分科会ハ右諸点ヲ含メル後出ノ如キ条約案ヲ作成シテ分科会ニ提出、分科会ハ二月七日之ヲ採決シテ第一委員会ニ報告シ第一委員会ハ三月十一日第十五回會議ニ於テ之ヲ採択セリ

(四)条約案内容左ノ如シ

（新条約第一編ニ略々同シナルヲ以テ省略ス）

(乙)質的制限問題

(一)質的制限問題ハ一月三十一日第一委員会第十四回會議ニ於テ設置セラレタル専門分科会ニ附託セラレ同分科会ハ二月七日ヨリ三月九日迄五回ニ亘リ会合シ且特別小分科会ヲモ設ケテ審議シタル結果保障条項成立ヲ条件トシテ左記要旨ノ勸告及条約案ヲ決定シタルカ右ニ付

(イ)伊国側ハ主力艦ノ質的制限及不建造帶ニ関シ留保ヲナシ

(ロ)米国側ハ量の制限ヲ伴ハサル質的制限ノ受諾ハ将来ノ条約ニ於ケル同問題ニ対スル米國ノ態度ヲ害スルモノニ非ストノ留保ヲ附シタリ

(二)分科会ノ勸告

(A)質的制限及不建造帶

(イ)主力艦

三万五千噸、最大砲口径十四吋（三五六耗）トス

但シ華府条約署名國ノ何レカ一國カ一九三七年一月一日前ニ本規定ニ合致スル協定ニ入ラサルトキハ最大砲口径ハ十六吋（四〇六耗）タルヘシ

(註)主力艦質的制限ニ関シテハ一月二十九日第一委員会第十三回會議ニ於テ英國ヨリ三万五千噸案ヲ提出シ之ニ対シ仏伊側カ二万七千噸ヲ主張セルハ前述（第一章第一ノ三）ノ通ナル処分科会ニ於テハ各國容易ニ見解一致セス米國側ノ三万五千噸說ニ対シ仏國側ハ之カ引下方ニ関シ種々說得ニ

努メタルカ米側ハ飽ク迄態度強硬ナリシ為仏国側ノ感情ヲ害シタルモノノ如ク仏国政府ハ二月十八日在米同国大使ヲシテ直接國務省ニ対シ本件再考方ヲ求メタル趣ナリ此ノ間ニ在リテ英国側ハ結局三万五千噸ニ落付クモノナラハ寧ロ其ノ儘トシ何等ノ細工ナキヲ良シトストノ態度ニ出テタル趣ニテ遂ニ仏国側ノ讓歩ニ依リ三万五千噸ニ決定セリ

而シテ最初ノ三万五千噸艦若干隻建造ノ經驗ニ徴シ爾後噸数及砲口径ノ引下可能トナルコトアルヘキニ依リ一九四一年一月以後起工又ハ取得ノ分ニ付縮少ノ可能性決定ノ為一九四〇年ニ各国間ニ協議方ヲ条約中ニ規定シ又右協議ノ主要目的カ主力艦ニ関スル經費節減ノ願望ニアルコトヲ条約中ニ指示スルコトニ合意ヲ見タリ(伊国側カ主力艦質的制限ニ関シ留保ヲナシタルコト後出ノ如シ)

(四)不建造帶

一七、五〇〇噸ニ達セサル甲級主力艦ハ一九三七年ヨリ一九四二年(同年ヲ含ミ)迄ノ間起工又ハ取得セラルルコトナカルヘシ

口径十吋(二五四耗)ニ達セサル砲ヲ搭載セル主力艦ハ一九三七年ヨリ一九四二年迄起工又ハ取得セラルルコト無カルヘシ

(註)①本不建造帶ハ乙級主力艦ノ最大限タル八千噸ヲ底トシ一万七千五百噸ヲ天井トセル範圍ノ不建造ヲ意味スルモノニシテ主力艦艦種内ニ於テ強力ナル巡洋艦ノ建造セラルルヲ阻止センカ為ナリ又

最小備砲ノ口径ニ制限ヲ設ケタルモ同趣旨ニ出ツ

(2)尚伊国ハ二月中旬以来英側ト会谈ノ結果同月二十七日主力艦艦型及不建造帶ニ関スル技術上並ニ手続上ノ困難ニ基キ此ノ際新条約ニ署名ノ用意ナキ旨ヲ英ニ通報シタリト発表セラレタルカ右ハ伊国側ニ於テ他ノ問題ニ関シ重大ナル紛議アルニ際シ軍縮問題ニ関シテノミ同一關係国間ニ和協的条約ヲ署名スルハ異常ナル措置ナリトシ欧州政情ノ変化ヲ見ル迄現実ノ調印ヲ延期シタシトノ政治的理由ニ出テタルモノナリトノ觀察ヲ行フモノアリ(伊国側ハ三月十一日第一委員会第十五回会議ニ質的問題上程ノ際モ主力艦及不建造帶ニ関シ一般の留保ヲナシ結局新条約ニ署名セザリキ)

(ハ)航空母艦

二三、〇〇〇噸、最大砲口径六・一吋(一五五耗)尚口径五・二五吋(一三四耗)ヲ超ユル砲十門ヲ超エテ搭載スルヲ得ス

(註)①二万三千噸ニ制限シタルハ仏国側ノ慎重ナル技術的研究ノ結果ニ基キタルモノナリ

(2)航空母艦ノ他艦種トノ區別ニ付テハ「専ラ」(primarily)航空機ノ海上ニ於ケル搭載及運用ヲ目的トシテ設計セラレタルヤ否ヤニ在リト認メラルル処搭載砲ニ付テモ制限ヲ設クルヲ必要ト認メタル次第ナリ

(3)航空母艦ト主力艦トノ區別ニ関シ分科会ニ於テ論議セラレ右ハ搭載機数ニ依リ區別スルノ外ナシ

トセラレタル処米代表ハ如何ナル艦船タルヲ問ハス之ニ搭載スル航空機数ニ制限ヲ設クルニ反対シタル為結局右区別規定方ハ之ヲ断念シタリ

(4)米代表ヨリ倫敦条約第三条第二項ニ関シ注意アリタルニ依リ航空母艦ノ定義中ニ同母艦以外ノ艦船ニ離著甲板ヲ装備スルコトノ不禁止ヲ明ナラシムルコトヲ勸告セリ(後出航空母艦ノ定義補足参照)

(5)尚将来主力艦ノ発達ニ伴ヒ航空機離著甲板装置ノ必要ヲ生スル場合ヲ考慮シ之ヲ禁止シタル倫敦条約第三条第三項ノ如キ規定ハ新条約ヨリ之ヲ除ケリ

(二)軽水上艦

甲級―一九三七年ヨリ一九四二年迄ノ間起工又ハ取得セラルルコト無カルヘシ

乙級―八千噸ヲ超ユルモノハ一九三七年ヨリ一九四二年迄ノ間起工又ハ取得セラルルコト無カルヘシ

但シ右規定ハ八千噸ヲ超ユル艦齡内軽水上艦ノ亡失又ハ不慮ノ事変ニ依ル破壊ノ場合ニ同種艦船ヲ以テ代換スルノ権利ヲ害セス

(註) (1)米國側ハ甲級巡洋艦並ニ八千噸ヲ超ユル乙級巡洋艦ノ六年ヲ越ヘサル建艦休日ニ同意スルノ用意アルモ巡洋艦ノ新ナル質的制限ハ之ヲ受諾スルノ用意無キ旨ヲ明ニシタリ(此ノ趣旨ハ新条約案中ニ挿入セリ)

(2)仏國側ハ甲級巡洋艦及八千噸ヲ超ユル乙級巡洋艦ノ建艦休日ハ一九三六年中及新条約実施期間中華府条約ノ締約國ニ非サル國カ此ノ種艦船ヲ建造セサルコトヲ条件トスル旨ヲ明カニセリ

(3)建艦休日ノ期間ハ一九三七年ヨリ一九四二年(同年ヲ含ム)迄トシタルカ右ハ一方ニ於テ新式甲級巡洋艦ノ最初ノモノ即チ日本ノ古鷹級ニ隻カ一九四六年ニ艦齡ニ達シ從ツテ一九四三年迄ニハ其ノ代換問題カ提起セラルルト、他方ニ於テハ前記期間カ米國カ八千噸ヲ超ユル乙級軽水上艦ノ不建造ヲ受諾シ得ヘキ最長期間ナリシカ為ナリ米國側ハ建艦休日ノ期間カ条約ノ期間ト關係ナク協定セラレタルコトヲ示サンカ為「一九三七年ヨリ一九四二年ヲ含ミタル期間」トノ表現ヲ使用スルコトヲ希望セリ

(4)米國側ハ右巡洋艦ノ建艦休日ハ量の制限ニ等シキカ故ニ不慮ノ事変ニ依リ亡失シタル場合ニハ之カ代換ノ権利ヲ有スヘシト指摘シ右趣旨ノ規定ヲ設ケタルカ代換ノ権利ハ亡失艦カ艦齡内ノ場合ニ限定セリ

(5)尚英國側ハ一般的保障条項ハ國ノ安全カ他國ノ新建造ニヨリ實質的ニ影響ヲ受クル場合ニハ八千噸ヲ超ユル巡洋艦ノ建造ヲ許容セサルヘカラスト指摘セリ

(6)仏國側ハ不建造帯ノ遵守ハ甲級及八千噸ヲ超ユル乙級巡洋艦建艦休日ノ遵守ニ依存スルカ故ニ右ノ制限ハ其ノ期間ヲ同シクセサル可カラスト指摘セリ

(ホ)潜水艦

二、〇〇〇噸 最大砲口径五・一吋（一三〇耗）

（註）本問題ニ付テハ特ニ論議ヲ生セサリキ

（B）商船ノ武装制限条項等

分科会ハ尚新条約中ニ華府条約第十四条（商船ノ武装制限）第十八条（軍艦ノ処分方法制限）及第十五条（非締約国ノ為ニ建造スル軍艦ニ関スル制限）ト同趣旨ノ規定ヲ設クルコト又華府条約第十七条（戦争中他国ノ為ニ建造中ノ軍艦使用ノ禁止）ノ趣旨ノ規定ハ之ヲ設ケサルコトヲ勸告セリ

（註）右第十七条ノ趣旨ノ規定ヲ設ケサリシハ他国側カ同規定ノ遵守至難ナルコトヲ指摘シ種々論議ノ結果量の制限ナキ以上右規定ハ其ノ重要少シト認メラレタルカ為ナリ

（C）附加的勸告

以上ノ外分科会ハ尚左記諸点ニ関シテ規定方ヲ勸告セリ

（イ）或ル種現存艦船

現存艦船ニシテ新条約ノ質的制限ヲ超過スルモノ及標的用の、実験用又ハ練習用ニ改造セラレタル艦船ハ新条約ニ依リ別段変更ヲ受ケサルヘシ

艦船ノ艦種ヲ変更セシムル如キ重大ナル改造ニ付テハ事前通報及情報交換ヲ行フノ要アリト認メラル

現ニ新条約ノ制限ヲ超ユル口径ノ砲ヲ搭載スル艦船ハ改装ニ当リ右口径ヲ超ユル砲ヲ装備スルコト

ハ之ヲ禁止スルコト適當ト認メラレタリ尚改装ニ依リ噸数ノ増大ヲ許容スル規定ヲ設クルハ實際的ナラスト思考セラル

（ロ）修理又ハ改装艦船

華府及倫敦条約規定最大噸数ヲ有スル甲級巡洋艦ハ修理又ハ改装ニ依リ右噸数ヲ超過スルコトヲ予見シ得ルニ依リ分科会ハ一九三六年十二月三十一日前ニ竣工ノ甲巡ハ修理又ハ改装ニ依リ三百噸ヲ限度トシテ規定排水量ヲ超過シ得ヘキ趣旨ノ声明ヲ第一委員會議事録ニ止ムヘキコトヲ提議ス（將來ノ建造ニ於テハ改装ニ依ルスル噸数超過ヲ認メス）

（ハ）廃棄艦船ニ関スル通報

廃棄其ノ他処分セラルル艦船ニ関シ事前通報及情報交換ヲナスヘキ旨ヲ規定スルコト適當ナルヘシ右ハ戦闘艦船ヨリ標的艦又ハ練習艦等ニ変更セラレタル艦船ノ其ノ後ノ処置ヲ明ニスル為特ニ必要ナルヘシ

（ニ）補助艦船ニ関スル通報

他ノ艦種ト近似セル補助艦船ノ建造ニ関シ疑惑ヲ除ク為補助艦船ニ付テモ戦闘艦船ト同様ノ通報ヲ行フコト適當ナルヘシ

（ホ）一九三七年ノ最初ノ数ヶ月間ニ於ケル艦船ノ建造

事前通報及情報交換ニ関スル条約案ニ依レハ一九三七年最初ノ数ヶ月中ニハ如何ナル締約国モ艦船

ヲ建造シ得サルヤニ解セラルルニ付此ノ点ニ付特ニ規定ヲ設クルコトヲ勧告ス
 尚新条約ノ発効ト共ニ其ノ際建造中ノ艦船ニ関シテモ通報方ノ規定ヲ設クルコトヲ勧告ス
 条約案ハ一九三七年一月一日ヨリ発効スルモノトシテ起草セラレタルモ右以外ノ期日ニ発効スル場
 合ニハ変更ヲ加ヘ且一九三七年度ニ事前通報及情報交換ヲ行ハシムル様過渡の規定ヲ設クルノ要ア
 ルヘシ

尚分科会ハ事前通報及情報交換ヲナス場合ノ期日トハ関係国カ右情報ヲ現ニ接受スル日ヲ意味スル
 モノナルコトヲ新条約中ニ明ニスヘシトセリ

(ハ)航空母艦定義ノ拡大

(ト)将来ノ主力艦建造ニ関スル協議

(三)分科会ハ以上諸点ヲ含メル次項ノ如キ条約案ヲ作成シテ第一委員会ニ提出同委員会ハ三月十一日第十
 五回會議ニ於テ之ヲ採択セリ(第一章第一ノ五参照)

(四)分科会提出ノ条約案内容左ノ如シ

第一 質的制限条項案(新条約第二編ニ略々同シナルヲ以テ省略ス)

第二 質的制限以外ノ部分ニ挿入スヘキ条項案

(1) 一般的规定中ニ挿入スヘキ条項案

(イ)軍艦ノ処分方法制限(新条約第四編第二十二條ニ同シ—本条ハ華府条約第十八條ト同趣旨ナリ)

(ロ)次回會議開催期日(新条約第五編第二十八條ニ略同シ)

(2)建艦計画事前通報及情報交換ニ関スル条項補足(同上第三編第十二條(5)ノ(ロ)及(ハ)等)

(3)事前通報及情報交換ニ関スル新条項ノ追加(同上第三編第二十條及第二十一條ニ略々同シ)

(4)航空母艦定義補足(同上第一編第一條(ロ)(ニ)第二項)

第三 第一委員會議事録ニ留ムヘキ勧告

華府及倫敦条約規定ノ排水量ニ嚴格ニ応シテ建造セラレタル甲級巡洋艦ハ修理若ハ改装ニ当リ或ル
 場合ニハ規定排水量ヲ多少超過スルノ要ヲ生スヘシ

右ノ事態ニ応シ且同時ニ条約ノ規定ノ嚴格ナル遵守ヲ確保センカ為一九三六年十二月三十一日前ニ
 竣工セル甲級巡洋艦カ修理又ハ改装ニ依リ基準排水量ヲ若干超過スルコトハ之ヲ合法ト認メサルヘ
 カラス但シ右超過ハ如何ナル場合ニモ三百噸ヲ超ユヘカラス

(右勧告ハ第一委員会第十五回會議ニ於テ採択セラレタリ)

第二章 一九三六年倫敦海軍条約ノ成立

新海軍条約(五編三十二條ヨリ成ル)署名議定書及追加議定書ト共ニ三月二十五日聖「ジェームス」宮「ア
 ンナ」女王ノ間ニ於テ英米仏及英自治領(愛蘭及南阿ヲ除ク)ノ各代表ニ依リ署名セラレタリ

尚其ノ際(三月二十四日、五日)英米代表間ニ文書交換セラレタリ

第二編 帝国トノ交渉案件

帝国ノ會議脱退後ノ交渉案件左ノ如シ

第一 「オブザーバー」参加問題

一、一月十五日帝国全権ヨリ第一委員會議長宛脱退通告文ヲ送付シタルニ対シ同議長ハ一月十六日附左記答翰ヲ送付越シ會議ニ我方ノ「オブザーバー」参加方ヲ招請セリ

以書翰啓上致候陳者本官ハ昨日貴全権カ日本全権團ハ最早今次會議ノ討議ニ有效ナル協力ヲ繼續シ得ストノ結論ニ達シタル旨ヲ指摘セラレタル本官宛貴翰ヲ本日ノ海軍會議第一委員會會議ニ提示致候各全権團トモ日本全権團ノ決定ヲ真ニ遺憾ト致シ候

右決定ニ依リ生スル困難ニ拘ラス會議事業ハ繼續スヘキコトニ決定致候

第一委員會ハ本官ニ対シ日本政府ハ會議ノ事業ト接觸ヲ保チ其ノ進行振ニ付政府ニ報告シ得ル如キ一名又ハ数名ノ「オブザーバー」ヲ残サルル希望ナキヤヲ確ムヘキコトヲ要請致候右申進旁々云々

二、帝国政府ハ右會議側ヨリノ招請ニ応シ在英藤井代理大使及藤田海軍武官ヲ「オブザーバー」トシテ出席セシムルコトトシタリ仍テ一月二十日帝国全権ハ第一委員會議長「モンセル」ニ対シ右招請受諾ニ関スル同日附左記書翰ヲ手交スルト共ニ我方「オブザーバー」ハ尠クトモ連盟ノ「オブザーバー」ト同等

ノ地位ニ立ツヘキモノナル旨ヲ述ヘタル処議長ハ勿論其ノ通ナリト答ヘタリ

以書翰致啓上候陳者本月十六日附貴翰了承帝国政府ハ會議事務ト接觸ヲ保ツヘキ「オブザーバー」残置方ニ関スル御招請ヲ受諾スルコトヲ茲ニ回答スルハ本官ノ光荣トスル所ニ有之候帝国政府ハ右「オブザーバー」ハ第一委員會ノ會議及其ノ他重要ナル會議ニ出席スヘキモノト了解致候

帝国政府ハ藤井代理大使及藤田海軍武官ヲ倫敦海軍會議ヘノ「オブザーバー」ニ任命シタル旨茲ニ附

言致候

右申進旁々云々

斯クテ我方「オブザーバー」二名ハ一月二十九日第十三回會議以後第一委員會ノ各會議ニ列席セリ

第二 太平洋防備制限問題

一、本年一月二十三日第一委員會議長「モンセル」ハ永井全権ノ来訪ヲ求メ會談ノ際華府條約中太平洋防備制限事項ノ存置問題ニ言及シ同問題ニ関スル我方ノ意向ヲ尋ネタルニ付全権ハ右ニ付テハ會議ヲ脱退セル今日何等意見ヲ述フルヲ得サル旨簡單ニ答ヘタル処「モンセル」ハ日本政府ノ意向ヲ知り置クコト會議指導上好都合ナリトテ請訓方ヲ希望セリ

二、右ニ対シ帝国政府ニ於テハ二月十二日帝国政府ノ意向トシテ左ノ趣旨ヲ英国側ニ申入方在英藤井代理大使ニ訓令セリ

英国ノミナラス米國側ニ於テモ希望スル場合防備制限ニ関スル事項ヲ单独ノ條約トシテ協定ヲナスコ